

School of Medicine

医学部 医学科



<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/>
06-6645-3611

医療の現場で協力合い、
迅速に対応できる医師を目指す。

最先端知識と技術をもって 全人的な医療人を育成する。

学びの特長

「智・仁・勇」を 理念としたカリキュラム

医師に必要な高度な医療知識[智]はもちろん、勇気をもって信念を貫く技術と行動力[勇]を修得し、人の悩みや痛みを深く温かく受け入れる慈愛の心[仁]を育みます。これらを基本理念に据えたカリキュラムを設置しています。

1年次から現場に出て、 最先端の知識と技術を体感する

早期臨床実習(1~3年次に実施)で附属病院や教育協力病院などで現場に触れ、実際の医療を体験します。実習を通じて医学・医療の最先端知識と技術を体感し、全人的な医療人の育成を目指します。

21世紀の医学・医療に 対応した豊かな学び

大阪市にある唯一の医学部医学科として、これまで5,137人の卒業生を輩出。近年の目覚ましい医学・医療の発展に対応し、社会に貢献していく学びを提供するため、教育・研究・診療体制の改革に取り組んでいます。

Student Voice 在学生の声

知識と技術が医療の
現場でつながり、
スキルとして身に付きます。

人の命を救う仕事がしたいと医学科を志望。授業では常に新しい発見があり、得た知識を実習で生かせたときや、実習での経験を授業で再確認できたときに成長を感じます。患者さん一人ひとりと向き合い、医療現場で連携して治療ができる医師を目指して、学びを深めていきたいです。

医学科 4年生 松本 峻介
東大寺学園高等学校卒業



Challenge of OCU 大阪市大の挑戦

希少難病の新規診断・治療法の開発

医学研究科 発達小児医学 濱崎 考史先生

小児科では、希少難病を抱え生活されているお子さんの診療に携わっています。個々の疾患はまれなため社会の認知が低く、研究者も少ないため、その診断法や治療法の開発は残念ながら進んでいません。一方で、遺伝子解析技術はもちろんのこと、生体物質を網羅的に分析できる質量分析技術の急速な発展に伴い、多くの希少難病の研究に光が当たるようになってきました。新生児マススクリーニングの拡大もその一例であり、現在われわれは、学部を超え、多くの研究機関と連携して新しい技術を希少疾患克服に応用する研究を続けています。



Professor's MESSAGE

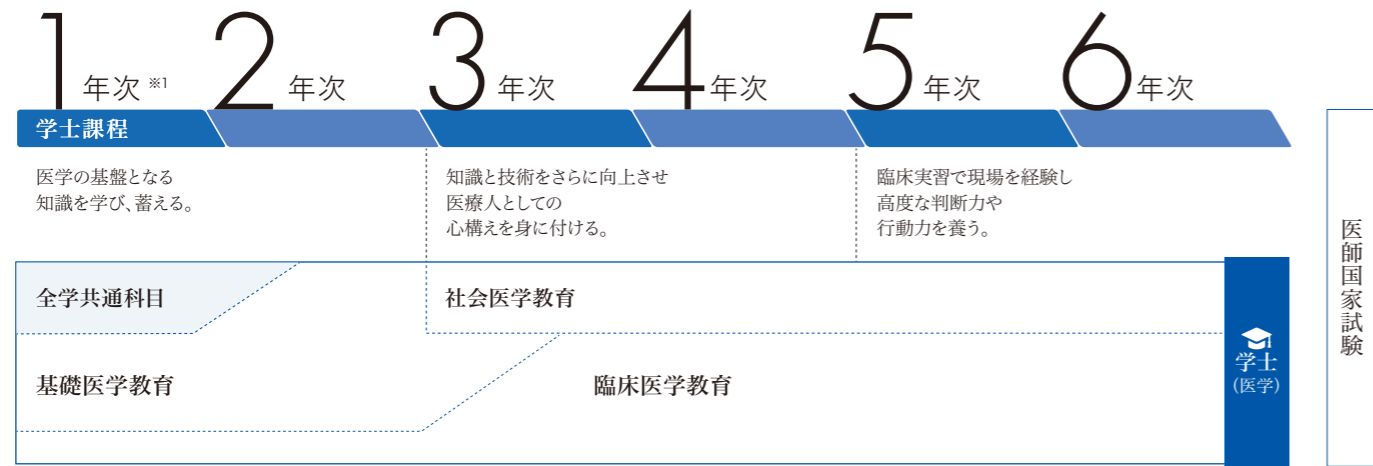
子供たちの健やかな成長を支える社会の実現へ共に活動しましょう!



医学科では、どのような入試を行っていますか?

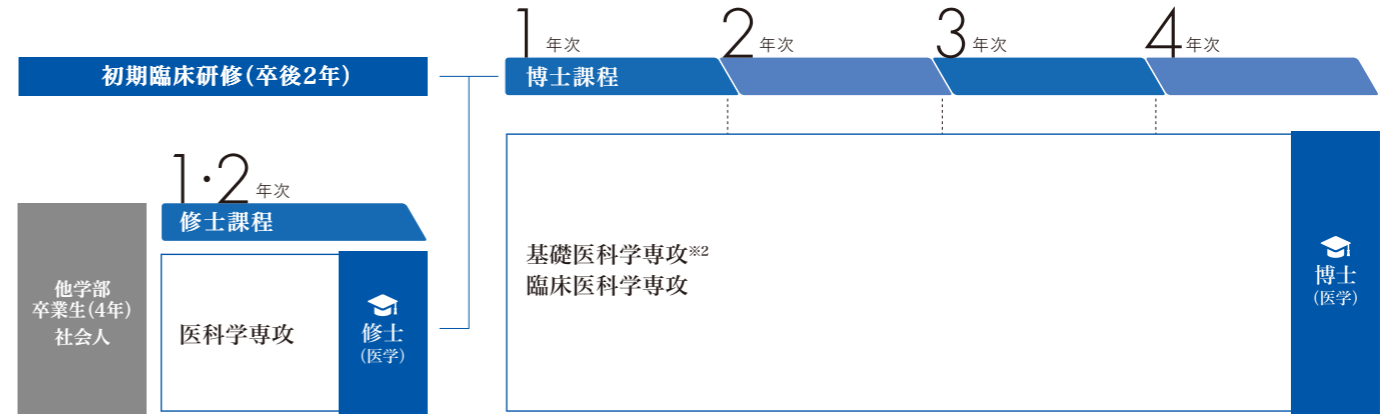
医学部医学科の入学試験は2009年度より、従来の分離分割方式から変更し、一般選抜前期日程で募集しています。2019年度より、新たに総合型選抜・学校推薦型選抜での募集も行っています。詳細については、医学部Webサイト(URL:<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/admission/index.shtml>)をご覧ください。

I Curriculum I



※1: 大学院準備コース 大学院基礎医学専攻への進学を希望する学生が登録可能です。

大学院 医学研究科 博士課程では、社会が求める医学・医療のさまざまな問題に対応するため、都市医学や老年医学、遺伝子治療などの分野やがん専門医師養成のためのコースを設置。高度な専門知識と技術を持つ医師や医学研究者、医療従事者を養成します。



※2: MD-PhDコース 大学院準備コースを修了し、所定の条件を満たした学生は最短10年で博士号が取得できます。

I Study Program I

基礎・社会医学教育

基礎医学では、まず人体の構造と機能のしくみを分子から個体レベルまで総合的に学修します。次に、病気の概念や細菌、ウイルス、医動物などの病原性とその感染機序、生体の免疫機構や薬物療法の基礎を学びます。社会医学では、健康事象の地域的・経年的分布、生活環境要因の健康への影響、地域・国・世界の保健システム、法的問題や心身への影響など、健康を取り巻く社会的要因について学びます。その後、基礎・社会医学系の各講座を選択し、教員の指導の下で特定のテーマについて学生が自ら研究する「修業実習」に進みます。

医学部の附属施設

▶ 医学部附属病院

電子カルテを含む病院情報システムや高度先端医療を支える最新鋭の診断・治療設備と優秀な教員・医師・医療技術職員・看護師によって高度医療を実施するとともに、優れた医師の養成と、先端医療の研究開発を行っています。

▶ 附属刀根山結核研究所

結核をはじめとする抗酸菌感染症における分子機序の解明、さらに、新規診断法や治療法の開発など、戦略的制圧研究に貢献しています。

▶ 医学情報センター

大学内外の研究者や医療関係者へ、医学・医療に関する最新情報を積極的に提供しています。

▶ 医療研修センター

医師や看護師をはじめ医療関係職員等が、より質の高い保健・医療の提供を目指し、多様な研修を行っています。

▶ 学術情報総合センター医学分館

医学雑誌・図書・マルチメディアを豊富に揃えています。

臨床医学教育

1年次より早期臨床実習を行い、一般病院や診療所で実際の医療現場を体験します。また、関連施設を使用した心肺蘇生実習も実施しています。3～4年次にかけて臓器別講義や臨床スクーター実習で共用試験(CBT・OSCE*)に向けた準備をします。本格的な臨床実習は4年次の終わり頃から始まり、5年次には附属病院の各診療科、6年次には教育協力病院でそれぞれ実習を行い、幅広い臨床技能を修得します。実習先の病院・診療科の選択と調整は、学生の自主性を尊重しています。海外の施設での臨床実習も可能で、毎年、数名の学生が参加しています。

*CBT: Computer Based Test 医学知識と問題解決能力を、コンピュータを用いて評価する試験
OSCE: Objective Structured Clinical Examination 態度・臨床技能を客観的に評価する試験

▶ 高度融合画像解析支援センター

最先端の画像解析・診断装置の高度活用を目指して、診療部門を越えた情報や技術の共有を実現し、装置の操作や画像の評価に関して支援を行う組織です。



I 講義紹介 I



基礎・社会医学教育

分子病理学 徳永 文敏先生

修業実習

修業実習は、基礎医学の全科目修了後に実施されます。約3カ月間、基礎医学の教室・研究室に配属され、特定のテーマについて、基礎系教員の指導の下、研究に取り組みます。実習を通じて、自ら課題を発見し、適切な解決方法を導き出す研究態度の基礎を身に付けることを目的としています。

学部ごとの注目情報をお届け

TOPICS

スキルシミュレーションセンター(SSC)

総合医学教育学・総合診療センター 首藤 太一先生

SSCは、医学・看護学生、研修医、看護師、ならびに全ての病院職員にシミュレーション医療教育を実施する施設で、さまざまな手技に関する講習会を定期的に開催しています。その中でも、学生がインストラクターを務める「AED講習会」は大変好評で、「学生たちの学習効果からみても有用」と多方面から評価されています。毎年、他学部学生や近隣住民、医学部を目指す高校生らも受講しており、学生が「Teaching is Learning」を体験する場となっています。



臨床医学教育

総合医学教育学 首藤 太一先生

臨床実習(外来型CC)

外来型CC[®]では、将来どの診療科でも必要な医療面接や診療記録を実践的に学びます。学生は外来部門で実習を行い、症例検討会で受け持った患者さんの症例について報告し、プレゼンテーションスキルを磨きます。本実習で修得したことをベースに、より専門的な臨床実習(5年次:ユニット型CC、6年次:選択型CC)に進んでいきます。

※CC…クリニック・クラークシップ:診療参加型臨床実習

I 卒業生紹介 I

恵まれた環境の中、実践的な手技や深い知識が身に付きます。

本学では低学年のうちから臨床現場に触れる機会が多いです。臨床現場では採血など、患者様に侵襲的な手技を要する場面に遭遇します。恵まれたことに本学にはSSCがあり、納得のいくまで手技の練習をすることができます。臨床経験を積むことによって複雑な座学への理解もより深まります。加えて非常に立地が良く、切磋琢磨する同志や先輩・後輩、先生方と輝かしい日々を過ごすことができます。本学での経験や得た知識、人脈は、かけがえのない財産です。充実したキャンパスライフを満喫し、皆様と共に働ける日が来ることを楽しみにしております。



医学部 医学科
2017年3月卒業
北川 大貴

地方独立行政法人
大阪市民病院機構
大阪市立
総合医療センター

Q&A 6年間の学部を卒業すれば、すぐに医師になれるのですか?

学部を卒業後、医師国家試験に合格すれば、医師免許を取得することができます。医師免許により医療行為はできますが、臨床経験が少ないので、研修医療機関で2年間の初期臨床研修を行う必要があります。さらに、後期臨床研修として専門医(内科系、外科系など)のコースに進むことにより、医師としての臨床経験を積みます。また、大学院へ進み、博士の学位を取得するコースを選択することもできます。

Q&A 高齢化社会に向けて医学部での取り組みは?

高齢化社会に対応して、老化の現象の研究、老年疾患の原因解明と治療法の開発を行うために、1998年に老年医学研究部門が開設され、2000年には老年医学大講座となりました。老化に関する分子制御、免疫学、遺伝子制御、脳・神経系、生体調節物質などの基礎研究や高齢者に多い腫瘍疾患や循環器血管の病気の研究や認知症研究、専門教育を行っています。